

1959～1960年度に生じたハクチョウ類の大規模移動

荒尾 稔

113-0021 東京都文京区本駒込 4-38-1-207

はじめに

いまから 54 年ほど前の 1959(S34)～1960(S35)年、特に 1959 年 12 月から 1960 年 3 月までにかけて北海道全域を寒波が襲い、その影響でハクチョウ類(ほとんどオオハクチョウ)が、大挙して北海道南西部、東北地方をはじめ本州のほぼ全域に近く、各地に渡来して越冬をするという大移動が生じた。著者は当時の日本野鳥の会の会長であった中西悟堂氏より依頼され、全国的な規模でのアンケート調査を行い又 1961 年から 1962 年に掛けて、アンケート等で課題のある現地の主要個所を調査した。

この報告書の趣旨

この情報と現在のハクチョウ類に関する多様な情報を比較対照することにより、過去から現在までどのような経過があったかを解析していくことで、これからのハクチョウ類動向など新たな角度から評価検証できることがいくつもあると思われる。

この調査報告を、今の時点で公表するとした目的は 3 つあります

- 昨今の地球温暖化等に伴い天候異変が日常化するような状況下、ハクチョウ類にとって、再度の大寒波等が再現したときにどのような事態に陥ることが考えられるかを、会員の方々と議論するための素材として発表を考えたこと。特にこの 10 年間での大きな変化として、多くの越冬地での餌付け行為中止により、ハクチョウ類にとって、安心、安全、そして食の保証というセーフティネットを失っている現状から、対応策をあらかじめ検討し、餌付けではなく給餌を含む保護策を講じておくことが、本会の大きな使命であると考えている。
- このアンケート調査及び、現地調査等を全国的に行ったこともアンケート用紙送付先の関係から、多くは林野庁への報告書など公式情報であり発表を控えてきたが、このハクチョウ類(主としてオオハクチョウ)の大移動から、50 年以上の経過があり、当方の責任で発表させていただくこと。

■ 2005年～2006年の北陸大豪雪によって生じた、第2回のハクチョウ類(コハクチョウ)の大規模移動との関連性も指摘する。

ハクチョウ類の大移動に関する初期情報とそれへの対応

1959年の12月初頭から、全国的に波動的に次々とハクチョウ類に関わる密猟や衰弱死に関する全国各地の情報が大量に発信されている。明らかに新しい渡来先での、餌の所在が分からないまま、餌不足等により主に幼鳥の大量斃死が生じ、また思わぬハクチョウ類と遭遇した猟師が銃猟や生け捕りを行って、その経過で全国各地の新聞社から当時日本野鳥の会の会長の中西悟堂氏に問い合わせが殺到する結果となった。

この報告書資料は、当時日本野鳥の会の中西悟堂氏の要望で、当方が日本鳥類保護連盟のご支援をいただき、私一人が関わりかつすべて自費で行ったアンケート調査であり、現地調査である。

今回の報告は、基本的にアンケートはじめ、いずれも第三者からの報告であり、斃死数なども県、市町村、新聞、研究家などの複合した報告で、コメントを付けることなく公開する。なお全データを今回と、研究家からの回答、傷病鳥の解剖などの報告などは次年度の会報にと2回に分けて公開する。

このアンケートと調査資料は、作成原本を1965年ごろ林野庁鳥獣保護課三島冬嗣氏を介してに引き渡しています。ここに発表する情報は、その折に私が全文コピーして保存しておいた内容で、その正確性に関しては、書き写し、デジタルデータ化もすべて自分で対処した資料ということですので私の責任ということでご理解ご了解をお願いします。

また、今回の報告内容に関しは、原則原本を忠実に再編するというを前提にして、私見を加えることなく、そのまま記載することを原則としている。

改めて全文を読み直して、1959年から1960年にかけて何が生じてしまったのかが、かなり明確となった。資料をもってその内容を共有していただければ幸いです。

アンケートによる全国調査開始まで

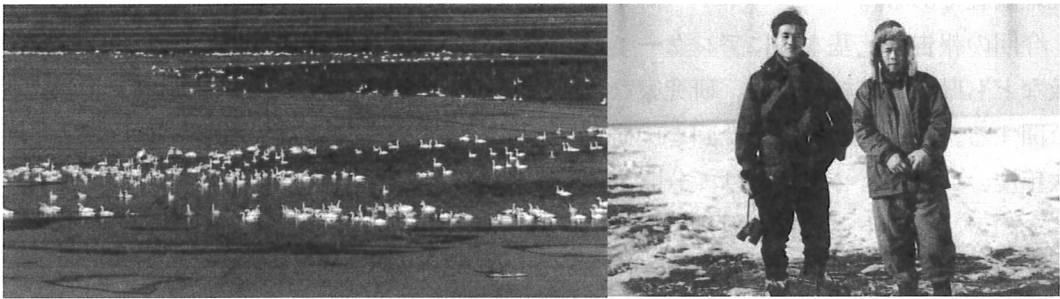
昭和35年(1960)春に、日本野鳥の会創設者である中西悟堂氏から、白鳥調査のことを打診され、黒田長禮氏、林野庁の三島冬嗣氏にも相談を行い、日本鳥類保護連盟の協力支援をいただき、白鳥の全国調査を行った(別紙案内状、アンケート用紙、など)。各県の林野庁各県支所、都道府県市町村、大手、地方新聞社、各地のハクチョウ類研究家の皆様などなどに一斉に送付を行い、全国から多数の回答を頂けた。今回のこの資料はそれを系統的に整理したものである。そしてその時点で資料の内容から容易でない事態と感じ、その中で調査可能な箇所を複数選び、北海道(複数回)、福島(複数回)、茨城県内(複数回)で、現地調査を1961年12月から1962年3月にかけて実施した。今後改めて死亡原因などの解析などが必須の項目と思われる。

アンケートによる全国調査の結果として

回答されたアンケートによって、この1回目のハクチョウ類(オオハクチョウ)の大移動の結果としては、北海道全域、そして本州では東北を中心にして本州の全域に、一部は九州まで渡来していることが分かった。同時に全国で数百羽に及ぶ銃猟と餌不足による衰弱死、そしてまさに凍結によって死亡が報告されている。

その年度のハクチョウ類の大移動の結果として、翌年以降、ハクチョウ類の個体数増加が継続的に生じている。結果としてオオハクチョウは本州北部で、各地に越冬地を形成することになった。

その後、ハクチョウ類の大移動が、これを機会に全国的な保護運動が急激に高まり、各地にハクチョウ等を対象にした保護区や禁猟区設置が相次ぐなど、積極的な保護策が講じられる大きな切っ掛けになったと考えられる。



さらに波及的な効果としては、全国的なハクチョウ類の保護活動が、市民活動を活発化させた効果だけでなく、ラムサール条約への日本の積極的な参画、宮城県下を主題としたガン類の保全活動にもつながる市民活動の種まきにも結びつく切っ掛けになったと考えている。

そして数年後からは、継続してハクチョウ類の渡来が成された越冬地では、渡来個体数も増えだし、より幅広くハクチョウ類の保護活動が行われることとなった。

それから10年後あたりから、各地に餌付けされた個体群がコリドー上に広がり、保護活動を中心にした各地の市民活動も活発となり、各地での研究会や情報交換に場を通じた全国的な広がりもあり、それが日本白鳥の会発足にもつながっていると思う。また1970年度から始まった全国的に開始された「ガンカモ類の生息調査」(環境省)開始にも結びつくと思う。

ハクチョウ類(オオハクチョウ)による大移動

1959年度までの、ハクチョウ類(ほとんどオオハクチョウ)の主要越冬地は、北海道東部(尾岱沼など)が主体とされ、本州に於ける越冬地として青森県の大湊、小湊、十三湖、秋田八郎潟、新潟県佐潟などが代表とされる。

報告書の重要箇所として、以下3点の情報が最も重要と考えられる

■*1) 北海道新聞 1960年2月12日記事からの抜粋—全文掲載文がある

道林務部調査では昨年の12月下旬より、体が衰弱して自由に飛ぶことができないまま保護された白鳥は全道で15羽。死亡が11日現在15羽、成鳥は3羽。12羽は幼鳥である。本道では毎年衰弱死する白鳥は1羽～2羽にすぎず、今年白鳥の死には異常であると見ている。渡来する白鳥は年々増えているが、特に今年日本海側沿岸まで含む道内各地に、しかも2ヶ月ほど早く渡来という異例な傾向である。

道林務課では原因を次のように見ている。毎年シベリアから一番早く渡ってくる根室の風蓮湖が例年より早く12月中旬に湖面の95%が凍結。一方道南方面では暖冬少雪であったために白鳥はこれまでとは異なり風蓮湖から分散して南にわたる傾向が出ている。ところが新しい飛来地は環境に不慣れなため十分に餌をとることが出来ず、特に幼鳥は順応性が低いために衰弱したのではないかと。さらに保護された15羽の中の3羽は銃撃を受けた傷があるが、これも新しい飛来地で白鳥を見慣れない猟人が不覚にも撃ってしまったのではないかと。この白鳥異変は瀬棚、内浦湾沿岸にも出ている。道林務課は関係支庁に対して「保護白鳥は薄暗い静かな部屋におき、救餌人以外は部屋に近づかない、餌は朝に1日1回バケツの中の水に青葉か青草を浮かしたのと、擦りつぶした穀類を水で溶いたものを与え、魚は与えないようにと指示している。

■*2) 北海道新聞 1960年3月11日記事からの抜粋—全文掲載あり

”湖面を閉ざす氷” 急激な寒波のため、根室風蓮湖、尾岱沼が主渡来地。1月中旬から下旬にかけて大吹雪やシケに見舞われ、一夜のうちに湖沼の水面が凍ってしまった。羽が凍りつく(厚岸)、あわてて移動したものの十分餌が取れず気候に順応できなかったなどで衰弱し現在までに確認された白鳥の死は約30羽(道林務部調べ)、網走のトウフツ湖で保護され網走水族館で死亡した白鳥の胃を調べた処、藻や草のひとつかけらもない状況であった。また渡来数が非常に増えたこともエサ不足に拍車をかけた。

風蓮湖・尾岱沼を合わせて1万1千羽くらいだったが、今年は2万羽近くもおり、別海村の野付湾や厚岸湖、トウフツ湖など道内の湖沼地帯だけでなく青森県小湊などでも驚くほど多数の白鳥が姿を見せている。

衰弱や死亡した白鳥の8割は幼鳥で衰弱しきった白鳥は手当てをしても回復せず死んでしまうケースが多い。トウフツ湖で弱っていた13羽の内7羽は2-3日で死亡。その他、生け捕りや撃ち殺されたとのうわさが頻々とある。(厚岸・野付)

■*3) 秋田県林務課からの報告(全文掲載あり)

昨年の渡来はこれまで八郎潟を中心に1,500羽から2,000羽の渡来を見たが、昨年から実施されている干拓工事のため、各地に分散したものと推定される。

■*4) 青森県林務課からの報告(全文掲載あり)

十三湖 ハクチョウ類渡来数 1958-59 1,000羽以上

1959-60 600羽以上の記載がある。

ハクチョウ類の大規模移動の状況

昭和 34・35 年度のハクチョウの大規模移動に関しては、いままでその当時の主体的な越冬地であった北海道根室周辺域での天候異変を想定している。

1 回目は、1959年12月初旬に生じた1ヶ月以上も早い、季節外れの本格的な寒波によって、風蓮湖をはじめとした北海道東部の主要な越冬地が完全凍結して、越冬のために南下してきたハクチョウ類の休息地としても餌場としても機能不能に陥ったことが大きな引き金と見る。その結果として大規模な移動を引き起こした。

例年はカムチャッカ方面から南下し、一度は風蓮湖等に集結し、体力の回復を待って南西方向、あるいは別海村尾岱沼などの方面へ逐次移動して、分散するのであるが、渡来目的先の肝心の風蓮湖などが例年と異なり完全結氷のために、そのまま南西方向へと移動を余儀なくされた。

繁殖地から長距離を移動してきた先が凍結し、休息も餌の確保もほぼできないまま移動中の主要な休息地や越冬地全域が氷に閉ざされてしまい、結果として、オオハクチョウ群が突然、北海道西部や本州各地へと、やみくもな移動によって、北海道から南下した個体群は 1959 年の 12 月、1 月にかけて突然のように、主として北海道の南西部全域、そして本州各地に飛来を行い、各地において、主として栄養失調などによる衰弱死、銃猟による斃死など、結果として異常なほどの多数の特にハクチョウ類がその幼鳥が集中的に死亡した。

さらに1960年1月～2月に入って、さらなる寒波に襲われての2次的な移動が生じた。また、もう一つの要素として例年越冬地であった秋田県・八郎潟の全域での干拓工事に伴って生息適地の実質的な消滅までもが重なって、第1回目の大移動をもたらしたのではないかと考える。

大移動の経過

この年、1959 年 12 月初旬に北海道全域、東北地方を襲った大寒波の襲来で、根室の風蓮湖などがほぼ完全に凍結した。

また 1 月から 2 月にかけて、更なる極寒に襲われ居残った個体も新たに移動を余儀なくされたて、さらに事態が悪化したという可能性もある。

また、各県林野庁からの報告書で秋田県八郎潟での干拓工事にともなって、1000-2000羽単位の移動が生じているという報告も新たな発見と考えると興味深いと思う。

参考として、当時の八郎潟干拓資料と照合すると、かなりな部分が整合をする。

■*5) 阿部学氏が 1964～65 年度の寒波によるやはりハクチョウ類による大量斃死の実態調査報告から、根室・別海村の尾岱沼や春別川河口などを現地調査の折に、亜成鳥の個体数が著しく激減したという報告がある。

荒尾が 1961 年 12 月に尾岱沼・春別川河口の現地観察したときに、成鳥と亜成鳥ばかりで、幼鳥の姿が全く見られなかった。この不思議さは、この論文で個人的な感覚として、幼鳥を伴う家族群は休息と餌資源確保のために、現地にとどまることよりも、環境変化に耐えきれない幼鳥を伴って一気に南下し、未知である北海道南西部や本州各地

にやみくもに移動を開始してしまった可能性が高いと考える。

12月渡来当初に幼鳥を伴った家族群がどうであったかの解析も必要になる。

大量斃死に至った原因の新たな角度からのメカニズム解析も必要となる。

1960年1～2月頃には、尾岱沼や春別地区に居残った亜成鳥に被害が集中した可能性を示唆している。

また、この1959・1960年度は、北海道各地に渡来したハクチョウ類の個体数が著しく増えていたという情報から推測して、例年になく繁殖地での幼鳥の生存率が高く、その家族群が越冬地での状況などから、大規模な移動を引き起こした主役という可能性も考えられる。

ハクチョウ類の大規模移動から見えてくるもの

ハクチョウ類と人々との関係は、第1回目の移動以前までは、どこの越冬地においてもハクチョウ類は、人を500m以内には寄せ付けなかったと私は理解している。今でもガン類と人々との関係はそれが継続している。

ハクチョウ類への餌付けに成功したのは、越冬地で、第1回目から10年も経過したころだと思う。

そこには第1回目の移動に関して、多くの死亡を伴いながら、危機を回避して無事越冬できたハクチョウ類の家族群に対しての人々の接触が、とても日本的でフレンドリーで、越冬に生き残った多くのハクチョウ類が引き続き翌年からも渡来し、また越冬地であり休息地である、北海道東部から青森県、宮城県、山形県、新潟県へと通じるフライウエーが成立しだしたことが大きいと思う。

瓢湖で餌付けに成功したあと、そのルート上での餌付けの成功例が相次いだことが報道されている。

余談ですが、ハクチョウ類と人々が仲良くなった、その前後にいつの間にか、マガンやヒシクイなどが、餌付きませんが、大いに安心感を与えることには貢献し、静かに渡来がはじまりだしたと結びつき、現在に至っていると思う。

たとえば、1961年のその時期 宮城県の伊豆沼や蕪栗沼はどのような状況であったか。実は、調査対象は福島県及び北海道が主体で、宮城県下は調査していません

いまから考えると残念な事でしたが、新聞情報などを解析する範囲では、主たる越冬地と浮かび上がることなく、福島県を中心に調査した経過がある。

伊豆沼でも情報では例外的な渡来ということでしたので調査を行っていませんでした。事実として猟区でもあった伊豆沼に生息しているとは考えて見なかった。

それから20年後、伊豆沼でオオハクチョウ、コハクチョウで5,000羽渡来と聞いて、耳を疑った記憶がある。それとコハクチョウの増加ぶりには目を見張りました。そのときの印象としては、ハクチョウ類が保護されてから、特に濃厚な餌付け箇所を中心にして、一次関数的な勢いで個体数が増加しているのだと感じ、違和感を持った。いまでも、その感覚は変わらない。

アンケート発送に伴う資料 ①「白鳥の渡来状況を全国調査」協力依頼の件

35年日鳥保護法第三十六号
昭和三十五年七月四日

東京都渋谷区南平台町四九 山階鳥類研究所内

財団法人 日本鳥類保護連盟

理事長 山階 芳 麿



殿

日本鳥学会会員荒尾稔氏の「白鳥渡来状況
の全国調査」に協力方御依頼の件

昨昭和三十四年末より昭和三十五年にかけての冬期各地に例年にないはど多数の白鳥が渡来したことは既に新聞などで報道され珍しい現象とされておりましたが、日本鳥学会会員荒尾稔氏が、林野庁、日本野鳥の会等に連絡し、白鳥（オオハクチョウ、ハクチョウ）渡来記録を作製されました。

さらに同氏は全国的に本種の渡来地を調査し確実な資料を作製したいと、此の調査計画を相談に求られました。
今までも各地で個々の調査はされておりましたが総合的な調査はなされておらず、確実な調査が出来れば学術上にも、又、本種保護の上にも貴重な資料となりますので当連盟では此の計画に全面的応援を致しております。
つきましては御多忙中恐れ入りますが各位におかれましては此の調査完成の爲に御協力下さる様お願い致します。

② アンケート 「解答用紙」

調 査 用 紙

御記入下さい。

① 貴地区に今年白鳥が渡来しましたか。 渡来した 渡来しない

② 渡来地の名称

- (イ)
- (ロ)
- (ハ)
- (ニ)

③ 渡来した数と渡来・渡去の日時

(イ) 羽 月 日(頃)渡来 月 日(頃)渡去
(ロ) 羽 月 日(頃)渡来 月 日(頃)渡去
(ハ) 羽 月 日(頃)渡来 月 日(頃)渡去
(ニ) 羽 月 日(頃)渡来 月 日(頃)渡去

④ 渡来地の状態

⑤ 死亡した白鳥がいましたか 羽死にました 死にません
死亡の原因について

⑥ 特別に保護しましたか しました しませんでした
どのように保護されましたか

⑦ 貴地の白鳥を写真、写真や調査報告などありましたら同封下さい。

昭和34年～35年度白鳥渡来状況調査

1 林野庁各都道府県林務課および支所からの調査報告－昭和34年～昭和35年白鳥渡来状況全国調査について

都道府県支所 調査報告書		報告日時 表記番号		調査報告内容						
北海道宗谷 支所 林務課長	昭和35年9月 5日	先にご紹介の在りましてこのことについて下記の通り回答をいたしました。 1 稚内市においては、3月下旬から4月中旬まで300羽渡来し、11月上旬飛び立つ 2 猿払村においては、4月上旬800羽程度渡来し11月上旬飛び立つ飛び立つ 3 豊富町においても300羽程度4月九湯に飛来し11月上旬			渡来地	昭和34年10月1日から昭和35年3 月15日まで	渡来数	前年度と比 較	斃死鳥の 数	備考
				白糠郡音別町 * 1		—	—	1	いずれかの地に移動中落下斃死	
				白糠郡白糠町コウトイ沼		2	—	—		
				阿寒郡鶴居村下セラリ古川		25	—	1		
				阿寒郡鶴居村中幌名市街		13	—	1		
				阿寒郡鶴居村恩根川塩地帯		180	—	—		
				阿寒郡阿寒町阿寒湖周辺		30	—	—		
				川上郡弟子屈町斜路湖		20	—	—		
				川上郡標茶町瑠路湖		60	30	—		
				川上郡標茶町シラルトロ湖		220	10	—		
				川上郡標茶町シラルトロ湖周辺 * 2		20	10	—	12月中旬渡来、3月中旬渡去	
				釧路郡釧路村字細岡 *		60	—	—	蘆古武沼周辺	
				厚岸郡厚岸町厚岸湖		2000	150	5		
北海道留萌 支所林務課 長	昭和35年7月 19日留萌第 263号	7月4日付日鳥保護連発36号で紹介がありました標記について、当館内は生息地帯でもなくなおも現在まで親友会総会においても白鳥渡来 を聞いたものも話もなく参考になる資料もありませんので、一応お知らせ致します。			渡来地	昭和34年7月 21日 号外	この ことにつ いて下記 の通り回 答をいた します。			
北海道日高 支所 林務課長	昭和35年7月 21日 号外	管内東部の幌泉町、様似町、浦川町、三石町、静内町、五つ町 2 渡来概数 12月上旬から4月下旬ころまで、2～3月中旬幌泉町油駒海岸に6羽確認。一番多い時は32羽を数えたこともある。三石町三石 川河口に3月中旬 1～3日おきくらくらくに6羽飛来。河口付近で遊泳。様似町様似川河口にも同様に3羽。幌泉川畔付近にも10羽前後いつも遊 泳している。このほか幌泉町8羽、様似町3羽、浦河町3羽、三石町4羽、静内町4羽 合計17羽が斃死している。斃死は様似町の1羽 を除き全部幼鳥で、群れを成して飛来途中で落伍したらしく全部1羽である。			渡来地	昭和34年7月 21日 号外	この ことにつ いて下記 の通り回 答をいた します。			

昭和35年8月4日(後志林号外照会のことについて下記のとおり報告します)	渡来場所	渡来月日	渡来数	斃死数	備考	
北海道後志支所 林務課長	蛇田郡倶知安町ソースケ川上流	35.1.15	1	1	1 密漁者により射殺される	
	蛇田郡倶知安町ソースケ川上流	35.1.30	1	1	1 密漁者により射殺される	
北海道後志支所 林務課長	蛇田郡狩田町尻別川	35.2.18	2			
	蛇田郡狩田町尻別川	35.2.25	2			
	余市郡余市町余市海岸	35.2.7	1	1	1 密漁者により射殺される	
	今回ご依頼のありましたことについて、当該には調査資料がなく、狩猟家、または研究者に対して管内各市町村あて1名の割で照会をしたところ。下記の見例の回報があったのでお知らせいたします					
昭和35年8月25日(留林第263号)	発見場所	発見年月日	発見数量	斃死数	発見した場所の状況	
	中川郡中川村天塩川上流	毎年11月初旬	約30羽	0	晴天には見ないが暴風雨時に見る	
北海道後志支所 林務課長	上川郡東川郡湧別温泉の池	35.4.20	3羽	0	大雪山国立公園内で湧水と温泉排水で不凍。面積1ha	
	依頼のありました標記のことについて管内渡来状況を報告します。管内に白鳥の渡来は例年見られなかったことであるが、35年1月中旬にかけて、管内各地で発見された多くは極度の衰弱あるいは外傷を受けていて飛べないものも多く道林務課からの指示を受け保護を加えたがほとんど数日で死亡している。					
	北海道後志支所 林務課長	発見の場所	発見の期日	羽数	斃死数	保護の状況及び処置
		亀田郡戸井村	35.1.15	1羽	1	1 救餌保護するも1.17死亡。村教育委員会が剥製に
		茅部郡森町宇島崎町海岸	35.1.24	1羽	1	1 救餌保護するも1.25死亡。森小学校が教材に
		松前郡松前町宇旭町	35.2.1	1羽	1	1 2.2死亡
		松前郡松前町宇小島海岸	35.2.2	1羽	0	0 救餌保護し全快したので3.20放鳥した
		松前郡松前町宇大澤海岸	35.2.2	2羽	0	0 海岸の岩礁地帯で2ヶ月位浮遊していたが飛び去った
		上磯郡木古内町宇中野	35.2.10	1羽	1	1 救餌保護するも2.15死亡。剥製にして教材とした
		茅部郡南茅部町宇豊崎海岸	35.2.20	2羽	1	1 1羽は町内で保護、3.10死亡。1羽は10日程度で行方不明
山越郡長万部町宇榮原		35.3.9	1羽	0	0	

石狩、胆振、十勝、空知、網走、根室、松山支所林務課及び北海道庁にも調査を依頼しましたが回答をいただけませんでした。

昭和35年3月7日付 青森県林務課長 323号	詳細は野鳥1960年7-8月号(第202号)の「本冬の白鳥白書」中西悟堂氏に報じられています。参照ください。別紙記載あり (2) 及び(3)
-------------------------	--

		7月4日付をもって御通知の在りまりました標記のことについて別紙の通り回答をいたします。なおこの資料は昨年度中の渡来状況で、例年その地区に白鳥が渡来するものではないので念のため申し上げます。自 昭和34年10月1日～昭和35年3月15日まで																																																					
	渡来地	渡来羽数	前年比	斃死数	参考事項																																																		
岩手県農林部林務課長	盛岡市滝沢村滝北上川	4	0	0	2月中旬に北帰																																																		
	胆沢郡胆沢村岩柳 石淵ダム	3	0	0	2月中滞留した																																																		
	一関市孤藤寺	2	0	0	2月中滞留した																																																		
	陸前高田市高田町	3	0	0	2月中滞留した																																																		
	岩和泉町二升石	2	0	0	12月中滞留した																																																		
	宮古市藤原 閉伊川	1	0	0	2月中滞留した																																																		
	宮古市藤原 津軽石川	7	0	0	2月中滞留 統鯨による																																																		
	久慈市久慈港	1	0	0	1																																																		
	九戸郡借米町晴山 御月内川	4	0	0	2月中滞留 統鯨による																																																		
	九戸郡野田村字部 宇部川	3	0	0	12月中滞留 統鯨による																																																		
	計	30	0	5																																																			
宮城県林務課	回答があり ありませんでした	<p>なお35年3月3日付で、林野庁宛に宮城県林務課より報告がありました。検査しましたところ水かさや爪を負傷。仙台博物館で飼育中で将来飼いたいとのこと 1 石巻方面で1羽捕獲されたと教示されました。 2 野炊で死亡1羽 のどの病気よし 3 登米郡長浜で1羽負傷して飛べ鳴き 個体を発見。検査しましたところ水かさや爪を負傷。仙台博物館で飼育中で将来飼いたいとのこと</p> <p>このことについて調査の依頼を受けていたが回答が遅れました。昨年の渡来はこれまで八郎潟を中心に1,500羽から2,000羽の渡来を見たが、昨年から実施されている干拓工事のため、各地に分散したものと推定される。別紙の表は農林省に報告をしたものの写し。自 昭和34年10月1日 至 35年3月31日 なおこの調査報告書とは別に林野庁に報告がありました。白鳥の密漁検査状況 第1報 35年2月20日 (要旨) ①県内五城田警察署にて、白鳥の密漁を検査したので直ちに金一封を持参して、徹底的に違反者の検挙を奨励したところ、2月2日付秋田魁がこれを5段抜きこのトップ記事に、その後中学校の投書にて10件ほどが検査され毎日記事が報道された。検査は2月4日前でその後はありません。現在県内には2,000羽ほどが渡来中②2月4日から県内を3地区に分けて警察署、県出先機関、狩猟監視員、親友会幹部を集めて、違反防止対策協議会を開催。この協議会は2月10日に終わっています。 第2報、35年3月1日 (要旨) 最近白鳥の大群が八郎潟の人口村瀧口方面に飛来。このうちの親羽が倒れ、シジミ採りの漁業者が取得、商人の手を経て大館市で売った。白鳥状況報告 本年は白鳥の渡来が多く、県内では初めての渡来地もあり。免許者の内からも検査者があり12件が検査された。第一号検査(2月8日)以前に捕獲したものです。白鳥で衰弱したものを動物園などに保護されているものも5件ほどあり。象潟以外の個体は1～10日以内で倒れ、幼鳥が多いようです。</p>																																																					
秋田県林政課長	昭和35年8月5日	<table border="1"> <thead> <tr> <th>渡来地</th> <th>渡来羽数</th> <th>前年度</th> <th>斃死数</th> <th>参考事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大館市を中心にした米代川上流地域</td> <td>120</td> <td>40</td> <td>1</td> <td>大館市地域の米代川で斃死鳥発見</td> </tr> <tr> <td>米代川支流阿仁川流域</td> <td>125</td> <td>20</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>八郎潟地域</td> <td>600</td> <td>500</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>秋田港及び雄物川河口地域</td> <td>70</td> <td>30</td> <td>1</td> <td>雄物川河口地域で斃死鳥を小学生が発見。秋田市動物園で保護したが3日目に死亡</td> </tr> <tr> <td>本庄市子吉川河口</td> <td>28</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>負傷白鳥を発見。象潟水族館で保護。25日目に死亡</td> </tr> <tr> <td>大曲市～共和村間 雄物川下流</td> <td>140</td> <td>20</td> <td>1</td> <td>大曲市の雄物川下流で病死鳥を発見</td> </tr> <tr> <td>雄物川上流地域(湯沢市中心)</td> <td>110</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>1羽は病死。1羽は保護したが翌日死亡</td> </tr> <tr> <td>雄勝郡菅瀬川流域</td> <td>50</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1259</td> <td>620</td> <td>6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				渡来地	渡来羽数	前年度	斃死数	参考事項	大館市を中心にした米代川上流地域	120	40	1	大館市地域の米代川で斃死鳥発見	米代川支流阿仁川流域	125	20	0		八郎潟地域	600	500	0		秋田港及び雄物川河口地域	70	30	1	雄物川河口地域で斃死鳥を小学生が発見。秋田市動物園で保護したが3日目に死亡	本庄市子吉川河口	28	0	1	負傷白鳥を発見。象潟水族館で保護。25日目に死亡	大曲市～共和村間 雄物川下流	140	20	1	大曲市の雄物川下流で病死鳥を発見	雄物川上流地域(湯沢市中心)	110	10	2	1羽は病死。1羽は保護したが翌日死亡	雄勝郡菅瀬川流域	50	0	0		計	1259	620	6	
渡来地	渡来羽数	前年度	斃死数	参考事項																																																			
大館市を中心にした米代川上流地域	120	40	1	大館市地域の米代川で斃死鳥発見																																																			
米代川支流阿仁川流域	125	20	0																																																				
八郎潟地域	600	500	0																																																				
秋田港及び雄物川河口地域	70	30	1	雄物川河口地域で斃死鳥を小学生が発見。秋田市動物園で保護したが3日目に死亡																																																			
本庄市子吉川河口	28	0	1	負傷白鳥を発見。象潟水族館で保護。25日目に死亡																																																			
大曲市～共和村間 雄物川下流	140	20	1	大曲市の雄物川下流で病死鳥を発見																																																			
雄物川上流地域(湯沢市中心)	110	10	2	1羽は病死。1羽は保護したが翌日死亡																																																			
雄勝郡菅瀬川流域	50	0	0																																																				
計	1259	620	6																																																				

		標記に関して別記の通り報告をいたします。事務の都合で遅れて申し訳ありません	
山形県 林政課	昭和35年8月 24日 林号 外	北村山郡大石田町、丹生川河畔	0
		最上川支流、鮭川支流	6
		東田川郡朝日村 荒沢ダム、八久和ダム	50
		西田川郡温海町、根ヶ関港門	70
		吹浦港及び月光川河口	10羽
		計	138
福島県	回答があり ませんでした	本県林務課瓢箪政係の大浪文太郎氏は、鳥16巻77号に「福島県内へのオオハクチョウの渡来」について述べておられる。	
茨城県 林政課	昭和35年7月 20日	下記の通り報告をいたします。本県における白鳥の渡来状況は、3年前に鹿島郡神栖村神の池(禁猟区)に見ただけで、それ以後の渡来は見られなかったが、本年2月10日ころ水戸千波沼にオオハクチョウ幼鳥1羽の渡来があり、同じころ鹿島郡神栖村神の池にオオハクチョウ21羽の渡来があった。千波沼の幼鳥はボートに追われ霞ヶ浦に移動したが2月20日ころ籠撃され保護下、3月20日死亡した。	
栃木県	調査表発送されていない		
群馬県 林務部長	昭和35年9月 20日林産	渡来の有無 渡来の報告はありません	
埼玉県農林 部林務課長		渡来の有無 ありません 過去の記録 ありません	
千葉県 林務課長	昭和35年9月 2日 林号外	このことについては様の通りでありますので報告をいたします。昭和35年1月末ころ千葉県印旛郡下印旛沼に近年にない10羽くらいが渡つてきたものを見たものが数名ある。滞在日数は2日ほど飛び去った。この箇所で見つかったのはほとんどない模様 位に2、3羽程度の飛来が目撃されているが本年度のごとく10羽位を見たものはほとんどない模様	
東京都	調査票を発送していません		
神奈川県林 務課長	昭和35年7月 15日	本県下には野性の白鳥は渡来しなかった。	
新潟県林務 課長	昭和35年8月 5日 林第1969号	標記のことについて、下記の通り回答をいたします。(1)県内における渡来状況 6月8日付け林第1394号で林野庁指導部長宛、昭和34年に おける渡来の状況を報告してありますので林野庁の資料を参照願います(私見 実見することとできませんでした)(2)略(3)新潟市学校 町1番地新潟大学医学部医動物教室大鶴正満教授に3年度に於ける斃死鳥及び事故死白鳥の大部分を解剖してもらっており、教授は寄生虫 の関係から本県に渡来する白鳥渡来に關して若干の資料をお持ちのほうですですからご紹介いたします。(4)新潟大学理学部江村重雄教授は か、千波元一さん、加茂農林高校の成沢多美也先生が資料をお持ちになってますのでご紹介いたします。	

富山県林政 課長	(1)昭和34年12月上旬、本県新湊市付近の海及び感しの湖にオオハクチョウ4羽の渡来を見るもその後飛び去れり (2)昭和35年2月16日婦負郡和合町の海岸で1羽の負傷個体。その後死亡し剥製に。
石川県林務 課長	加賀市大聖寺片野鴨池 4 0 0 珠洲郡内浦町九里川尻干拓地 7 0 0 2 渡来時疲労のため 鳳至郡野町大川 1 0 0 1 渡来時疲労のため 鹿島郡中島町笹師保海岸 3 0 0 計 14 0 0 3
長野県林務 部林政課長	このことについては本県では下記の通りです。
静岡県林務 部林政課長	昭和35年7月 19日 35林政号外
静岡県林務 部林政課長	昭和35年7月 19日 35林政号外
静岡県林務 部林政課長	昭和35年7月 19日 35林政号外
三重県 林務課長	昭和35年7月 26日付林課 第399号
滋賀県 林務課長	昭和37年7月 26日付林第 1113号
京都府林務 課長	昭和35年7月 14日
大阪府農林 部林務課長	昭和35年8月 25日付林第 3271号
和歌山県林 業課長	昭和35年10 月6日付2便

	渡来頭数	前年比	斃死数	備考
小諸市川辺宮澤	3	0	0	1射殺により1羽死亡
諏訪湖	5	0	0	1栄養失調により1羽死亡、1羽保護(大町山岳博物館)
計	8	0	0	2

下記の通り回答いたします。
静岡県浜名湖 浜名湖畔及び天竜市天竜川河口 上記箇所に30羽。本冬期にはじめて渡来したものの。
右のことについて日本鳥類保護連盟より依頼があったので回答します
渡来数 前年との比較 斃死鳥 備考
(1)志摩郡阿児町/磯辺町坂崎 17羽 0 1 本年初めて渡来 両街を往復している。
渡来記録 35年1月16日 17羽飛来。 1月10日に15羽 3月15日 6羽。斃死原因、1羽が養殖欄に首を挟んで

標記に関して以下の通り報告します
昭和34年未から35年にかけての冬期間における本県渡来状況
(1)琵琶湖北部(余呉川～姉川沖) 10羽
(2)琵琶湖東部(彦根市～野登川町沖) 6羽
(3)琵琶湖西部(堅田町沖) 3羽
(4)蒲生郡竜王町 3羽
(5)甲賀郡甲賀町 5羽
計26羽。なお琵琶湖北部、東部には毎年10数羽渡来している。

上記については渡来の情報がありません。なお滋賀県で捕獲され京都記念動物園で2羽飼育されています。1羽は1ヶ月程で死亡。(動物園で剥製) 1羽は元気になり現在も飼育中。

このことは調査したところ当府下では白鳥の渡来はまったくありません。

本県においては北部の紀ノ川下流に、34年11月中旬より約15日間、30羽の白鳥を見ました。

前回の報告で渡来日は11月中旬と申しましたが、その後さらに調べました結果、11月の初旬の日にも見たという人が出てきましたので訂正をいたします。また帰った日ですが約半月ぐらいいと申しましたが、約10羽くらいは最初の地点よりずっと下流の河口近くにおいて、年を越してから帰ったそうですから訂正をいたします。追記、なお上記の間に常にいたという事ではなく、和歌山市坂口自然科学研究所長の坂口健一郎さんが渡来しているのを11月頃に聞いて見に行ったが見ることが出来なかったということです。その間にも他に移動するものがあったとも考えられます。

奈良県 林政課長	昭和35年7月 15日	奈良県内には渡ってきませんでした	このことについては左記のとおりであります。林野庁指導部長宛報告をした資料による 昭和34年10月1日より昭和35年3月15日まで
鳥取県 林務課長	昭和35年6月 3日付受林第 761号	渡来概数	前年との比較 斃死鳥の数 参考事項 中海 7羽 0 鳥取県からの観鳥 皆生灘 2羽 0 0 一時的観鳥 計 9羽 0 0
高根県農林 部 林政課長	昭和35年7月 19日 林号外	標記のことについては下記の通り回答をいたします。 1. 昭和33年から昭和34年にかけての冬期間 オオハククチョウ 6道湖 (2) 渡来場所 93羽内1羽斃死 2. 昭和34年から昭和35年にかけての冬期間 オオハククチョウ 82羽内1羽斃死 昭和35年3月6日 昭和34年10月20日～昭和35年3月19日 この年は隠岐島にも海士、和夫の2ヶ所にも渡来したがその後は飛ばしていません。また県内のその他の地区に渡来した情 3. その他 仲西湖に昭和32年から33年にかけての冬期4羽渡来したがその後と飛来していない。また県内のその他の地区に渡来した情 報な入手していません。	(6) 参考事項 (4) 調査年月日 昭和34年2月5日 (5) 渡来渡去年年月日 昭和33年11月6日～不明 昭和34年10月20日～昭和35年3月19日
岡山県農林 部 林政課長	昭和35年7月 20日	山口県農林政 課 鳥政係	昭和35年7月調査したところ、35年1月中旬玉野市のため池に2羽、そのうちの1羽が撃ち落とされたことが判明。調査中。この残りの1羽が玉 野市七区の中拓地に降り、藤田友男氏が目撃した報告がありました。 このことについては下記のとおりでありますから報告をいたします。 参考事項 渡来地 奥武川下流 7羽 2月5日～2月27日 渡来中は地元民は餌を与え保護に努めた。7羽は無事飛び立った
徳島県商工 水産林産部 林業経営課 長	昭和35年7月 21日	徳島県商工 水産林産部 林業経営課 長	昭和35年7月4日付白鳥保護発36号で依頼のありましたことについて早速調査しましたが、本県では渡来の形跡がありません。
香川県農林 部 林務課 長	昭和35年7月 21日	香川県農林 部 林務課 長	白鳥保護発36号をもって、ご参照のことについて下記の通り回答いたします。 1. 昭和34年末から昭和35年にかけて本県にお渡来した白鳥に関して、各猟友会支部を通じて調査したが見たものはない
高知県林産 課		高知県林産 課	返答が遅れましたが、県として調査をし、また猟友会その他に問い合わせましたが本県への白鳥の渡来はありませんでした。
福岡県林務 部 治山課長	昭和35年7月 25日	福岡県林務 部 治山課長	標記について本県の渡来状況を別紙のごとく報告します。なお調査報告書が出来次第参考のため一部送付させていただきますようお願いいたします。 (要点) 渡来地 渡来概数 奥オオハククチョウ4 (内2幼) 期間 昭和34年11月24日 参考事項 1. 福岡市今津浜 友会員の山道昌菜氏で報告者の 藤田氏と仰草効果11月25日に観察する。なお1羽が付近の岡船寺村太郎丸池で射殺され残りは飛び去った。 2月26日北帰。 2. 福岡県三井郡小郡町三沢黒岩の池 急いで禁漁区指定をかけたが、猟友会の反対で設定は困難である。黒岩の池は町長と協議の上立札、 監視員を特別設置し、餌を与え保護につとめた。その他新聞社の発表で各方面の注意を喚起した。 3. 佐賀県林務課よりの電話で、佐賀県多久市南多久にて1羽保護。引き取りを依頼されたので伺ったところ、34年11月14日6羽飛来しこの 内1羽が撃たれたものと判明。福岡動物園に保護。なお種類はハククチョウである。

佐賀県林務課長	22165	このことにつき、ご照会に接しましたがその状況大要核の通りであります。本県内に白鳥の渡来したことが判明していません。ただし、昭和34年11月13日多久市宇南多久町宇世原部落に連続して撃たれたものと推定された白鳥が発見された事実があるのみであります。
熊本県農林部 治山課長	昭和35年8月27日	各狩猟者団体、元熊本動物園長など関係方面調査せるに、次の通りの状態でありましてお知らせします。 1 59年度 熊本県八代郡地方の海岸に2、3羽来訪の情報あり、1羽の被害があったとの風聞あり。 2 60年度 阿蘇郡地方に白い珍しい1羽飛来したとの新聞記事あり（白鳥ではないか）
大分県林業課長	昭和35年7月25日	先般ご照会の上記について県内に渡来したことを聞きませんでした。
宮崎県林務部 林政課長		1 白鳥渡来年月日 昭和34年11月21日 2 白鳥渡来地 宮崎県宮崎市土原町大字上田島 互田池（禁漁区） 3 渡来数 6羽（内幼4羽） 備考 地元町村及び所轄警察署帳にオオハグクチョウウの保護層について協力を求め、渡来地周辺には立札をたて一般に対し保護に協力をしてもらうようにした。さらに市町村広報に搭載して保護の重要性を説き幾分の施策をもって保護に努めた
付記		調査依頼に対して、ご回答を頂けなかった都道府県名は下記の通りです。（参考までに）
北海道		北海道庁
東北		石狩、胆振、十勝、空知、網走、根室各支所林務課 青森（但し、この調査以外のルートで資料は入手）
中部		宮城県（ ） 福島県（ ） 岐阜県 愛知県 福井県
関東		山梨県 ● 栃木県（調査票そのものの発送がされていない） ● 東京都（ ）
近畿・中国		広島県
四国		愛媛県
九州		長崎県 鹿児島県
沖縄		沖縄県

昭和34年～35年度白鳥渡来状況調査 2 林野庁各都道府県林務課調査報告 青森県 (書式が相違)

青森県支所	調査報告者	報告日時 表記番号	調査報告内容										
			羽数	1日以内	5日以内	1ヶ月以内	5ヶ月	備考	羽数	衰弱	銃弾	不明	備考
青森県	経済部林務課長	昭和35年3月7日付 青森323号	詳細は野鳥1960年7-8月号 (第202号) の「本冬の白鳥白書」中西啓堂氏に報じられています。参照ください。										
昭和34年～35年度白鳥渡来状況調査													
青森県支所	調査報告者	報告日時 表記番号	調査報告内容										
青森県八戸林務			羽数	1日以内	5日以内	1ヶ月以内	5ヶ月	備考	羽数	衰弱	銃弾	不明	備考
			5～15				5～15						
			1～3			1～3							
			2～5				2～5						
			1～3			1～3							
			2～5				2～5						
青森県八戸林務													
青森県田子林務			6		6						1		漂着、成鳥
青森県大沢林務			11					11			1		漂着
			3					3					
			4		4								
青森県野辺地林務			10～20					10～20					
			10～20					10～20					
			3～30					3～30			1		漂着
			10				10				1		
											1		
			753					753			30	29	1
青森県大湊田名部			1		1						1		
			1		1						1		
			10～20		1						1		

昭和34年～35年度白鳥渡来状況調査

3 市町村・研究家報告 昭和34年10月1日から昭和35年3月15日まで

都道府県市町村名 調査報告者	渡来地	渡来状況			死亡数とその原因		渡来地の様子	特別に保護されましたか ●例年渡来していませんか
		初渡来月日・渡来数	最多日渡来数	終認日・羽数	死亡数(内幼鳥)	死亡原因		
北海道網走市市役所	トーフツ湖	1-28 2羽	3-22 2,350	5-9, 300+	6(6)	脚腫が原因と思われる	2月初旬(トキリという)トーフツ湖を海流と連絡を取るために氷結した砂、土手の掘削をつくる。そのため60cm湖の氷が解けて水面が現れ、これを見てヨシや水藻を求めて飛来する。	記念物であるために網走警察北浜駐在所を結んで網走支所林務課と連絡をし指示に従った。
北海道斜里郡斜里町役所	①斜里郡字中斜里 ②斜里郡字本町	①②とも3月初旬 30前後		3月下旬 30前後			①斜里川の中流で湿地帯が多い ②斜里河口で旧河口が沼となっている	
北海道野付郡別海村役所	①走古丹坪音港 ②リハルタリ島周辺 ③風蓮湖内潮切	①②③いずれも50前後					①②③ともに11月下旬に飛来。12月中旬渡去。2月下旬に再度渡来。3月上旬渡去	
北海道根室市市役所	尾岱沼内赤別川・当賀川川口	10月下旬 3000	3月下旬 多い時は6000～7000		300羽前後	尾岱沼内で寒波のために凍死、流氷に乗って流氷に飲まれた。	風蓮湖内は結氷が遅く、とくに通称潮切と呼ばれる芭蕉は通常1月下旬まで結氷せず(年度で異なる)、また葉い時は波浪を避ける林野が多く、湖は水藻多く餌は豊富である。湖畔は比較的人口が少なく、人間以外に危害を加えられることはない。	昭和30年度に大風のために羽を痛めた白鳥を走り古丹小学校で保護し、北大の太田教授に引渡し現在札幌動物園にいる
北海道厚岸郡厚岸町役場	厚岸湖	10月12日 50前後	34年12月10日 20,000	35年5月14日 4羽	8	統派で6羽、自然死2羽	キタヨシ、スガモの生育分布が広範囲である。	しません
北海道釧路郡釧路町役場	①字細岡 ②字鳥通原野	①10-20 20+ ②10-20 30+	12月16日 3000	4月20日 100羽	5(5)	不明、想定する と寒波のために足の凍傷で餌を求められず、栄養失調で	岡田28kmの湖で、湖内に無数のカキ礁がありハクチョウはカキや海藻から餌を求めている。	冷暗所で餌を与えて保護し、一時元気になるが飛べないために死に至る。すべて幼鳥で成鳥は見られない。

北海道阿寒郡鶴居村役所	①下セツリ、古川付近 ②中幌呂、ホロノ川付近 ③堤防、温根川一帯、表川	①2-10 25 ②2-10 13 ③2-10 180		①4-20 25 ②4-20 13 ③4-20 180	2(2) 病気による衰弱	湿地帯、沼、川の地域で湿地の多いところ	死亡発見の為特に保護せず
北海道阿寒郡阿寒町阿寒湖出張所	①阿寒湖イベシベツ付付近 ②湖畔のヒョータン沼	①12-25 13 ②1-15 60	0	①不明 ②4-25 20	0	①阿寒湖に水が張りつめたところに渡来する模様。イベシベツ付付近の湖底から温泉が湧出することで周辺で水は張らなないために渡来。 ②この付近で一番早く11月中旬には水が張るが、沼の加工部分は水が張らない	
北海道白糠郡白糠町役場	鹿路村字コイトイ沼	2-5 2羽	0	2-12渡去		人の稀にしか行かない場所。ほかで該当なし	
北海道尾道郡大樽町役場	①生花苗沼 ②日方川流域 ③日方川流域	①2-20 6 ②2-23 3 ③2-25 2	2 原因不明	①3-5渡去 ②3-2渡去 ③3-10去		本町中央部を流れる日方川流域及び生花苗沼に飛来した。①には例年ではないが飛来することは珍しくないが、②③は珍しい	3羽を保護したが、2羽はほとんど餌を食べないまま死亡。1羽は元気に放鳥した。
北海道日高郡幌紫町役場	①字東洋 ②字新浜 ③字鶴泉 ④字笹舞	①12-28 270 ②12-28 135 ③12-28 50 ④12-28	5	①4-7渡去 ②4-20 ③3-10 ④3-10		当町には狩猟免許取得者が24名をいいるが絶対捕獲禁止を打ち出しているので射殺することはない、昨年未より今年の初春にかけてこのような珍現象まででない	●時々年に5～10羽渡来することがある。
北海道日高郡三石町役場	①三石川河口(淡水) ②三石漁港(海水) ③三石町美野和ほか	①22-20 6～8 ③1月11羽、3月2羽死亡	3羽とも衰弱で死亡。1羽には羽虫様寄生虫多数	①23-30渡去		②美野和で保護幼鳥は、3月まで美野和東中学で保護。現在丸山動物園に	①②に関しては漁協警察など連絡危害を加えない様に保護。また町役場では回覧や有線放送で趣旨徹底を図った ●渡来しなかったと思う
北海道浦河郡浦河町役場	①浦河町字杵臼～幌別川沿い ②〃〃 塚町～向別河口	①1-10 1 ②1-28 2	①12は凍死発見、1羽凍死寸前 3折れた個体もあった			届き出の時にいずれも弱っており、特別に餌を与えましたが2～3日で死亡	保護した幼鳥は鉄砲に射たてたようであるがひどく死亡した ●渡来したことはない
北海道静内郡静内町役場	局所的	①2月中旬 2					
北海道千歳市市役所	千歳市奥丹支笈湖	1-15 10 2-10 40	0	3-15 10		周囲41km、深さ348m、東西16km、南北6km湖型で透明度25mの陥没湖。支笈湖の北西に位置し、人は入らず静謐な場所	

北海道苫小牧市市立図書館長小野慶郎	①植苗ウトナイ湖 ②植苗静川弁天沼(同じ個体が移動)	11-20 30 11-20 30	1-20 1500±	4-15 50	不明(事故らしい)	①ウトナイ湖には明治45年の記録にも渡来しているのが鳥獣事典にもあるが、あまりに人里離れているのと冬期の交通からして関心も薄く北大で巡回調査したにすぎない。38年にこの地でウトナイ温泉と銘打つて観光地となり白鳥に関して言伝されているので保護の必要を感じて本年度から本格的にしたいと準備中である。	特別にしません、近日監視所をたてて保護にかかれます。
北海道胆振郡洞爺湖温泉町泉町武士徹也	①字月浦 ②字旭浦	11月中旬 数羽飛来		12月上旬 飛び去った	1 不明	①洞爺湖畔及び中島を中心に、毎年数羽のオオハクチョウが観察される。(11月中旬=12月上旬)今年も例年通りと思われる。	機会を得て教育しているが、成果がありません。
北海道渡島郡森町役場	沿岸および湖水	11-25 4	12-20 10	2-20 4	1 原因不明		
北海道広尾郡広尾町		2-10 12~13	2月末25 ~26	3月中旬 30±		通過のみ。2月~3月中旬当町は滞留なく阿寒方面の白鳥が上空を通過する。本年は夜間に3回発見した。	
北海道川上郡標茶町役場	①塘路湖 ②シラルトロ湖 ③ " 周辺域					①60羽 前年は303羽 ②220羽 前年は10羽 ③20羽 前年は0羽	
付記 調査依頼に対して、「渡来なし」とご回答を頂けた内市町村名は下記のとおりです。礼文郡礼文町役場、枝幸郡枝幸町役場、常呂郡佐呂間町役場、目梨郡羅臼村役場、足寄郡足寄町役場、帯広市市役所、帯広市市役所、中川郡池田村、広尾郡忠類村、河西郡更別町、河西郡更別町、河東郡鹿島村							
付記 調査依頼に対して、ご回答を頂けなかった北海道内市町村名は下記の通りです。(参考までに) 稚内市、天塩郡豊富村、宗谷郡雄勝町、利尻郡利尻町、天塩郡天塩町、紋別郡雄武町、十勝郡浦幌町、中川郡本別町、中川郡豊頃町、中川郡幕別町、河西郡茅室町、加東郡音別町、標津郡中標津町、標津郡標津町、様似郡様似町、							

青森県三沢市市役所	①小川原沼 ②尾鯨沼 ③鷹架沼 ④弘沼	11-15 150	1-10 400(最多)	2-下旬 渡去	50 村殺	小川原湖は冬の間は2月頃より結氷するのであるが、白鳥渡来は毎年回数程度で昨年のみという事はない。結氷の折は高瀬川周辺の結氷しないところに移動する。鷹架沼はその中で最も多数で平均約200羽はいる模様である。 ①小川原湖の白鳥について 小川原湖は古来の元によれな、昔は数千羽に及ぶ白鳥の渡来地で、現在の狩猟家でも1発の弾丸で30羽程度の白鳥を銃殺したと語る人がいてこの面からもある程度推察される、大滝小滝の白鳥類は、汽車の右線にも近い小川原湖の白鳥は取られて地元の方々を除けば知られていない。終戦後米軍の駐留によって外人ハンターにより白鳥は安住の地を失なっている。それでも渡りの時期には数万羽の水鳥達が留集する。白鳥も小川原湖から小沼群の①～④に移動する。この春小川原湖で市民ワカサギ釣りの目前で白鳥が銃撃されて以来保護問題が急速に盛り上がり小川原湖東岸一帯の禁猟区設定がされた	従来特別保護の措置はなかつたたのであるが、今年度より禁猟区設定により米軍基地の厚意により残飯等を与えていく方針です。 ●小川原湖に関する別記があります。
青森県むつ市市役所三上土郎	下北郡大湊市 ①田名部河口干潟 ②声崎湾入り江干潟	11-23 6	2-12 784	5-9 4	54(50)	①②③主にアマモ、一部アオサ、ともに風波なし。付近には自衛隊・米軍航空隊基地あり	禁猟区、並びに県天然記念物(1980-6-24)並びに残存白鳥救済(リンゴゴ並びにバターせんべい) 補給保護
青森県東津軽郡平内町崑山正光	小湊港 ①小湊浅所	10-15 8	1-31 1242(内幼322)	5-24 1	45	選所だけでこれだけです。密猟によりガモの釣り針を飲んで5羽、ほかは餓死と思われ	家の中に入れてやり同居をしながら餌をあたえ、また餌の取れるものは取ってやりました
青森県東津軽郡平内町役場	(平内町役場から同様報告) ①小湊浅所	10-8 8	1-10 1176	4-27 15	42	不明(極寒、栄養不良と思う)	餌を与えた。収容してみた。
青森県北津軽郡市浦村三上土郎	十三湯、岩木川河口デルタ、並びに河口湖一部干潟を含む平穏な湖面	10-16 8	3-26 700±	4-8 50±	40(推定)	大湊地区と同様に死体確認10羽ハンターによる村殺推定約30羽(三上が協力者の報告で推定)	1960.3.20 県文化財指定 それ以前は篤志家による啓発保護活動であった

青森県北津軽郡市浦村役場	十三湖	10-16 8	3-24 940	4-8 50	60	10羽、餌不足によりタニによる衰弱(特に幼鳥に多い)50羽、ハンターによる密猟(実際にはまだ多いと思われ)後幸されたものあり)	①十三湖は50平方キロの遠浅の平沼で、年産50万羽の名産地であり、白鳥渡来の絶好地でもあり、相当以前から(私の知る範囲で20年前)飛来しており、昔は相当数飛来していたと言われる。古老の話では夜うるさく眠れないくらいだったそうです。	ハンターの密猟に関して県議会で問題化、具体的保護対策として35-3-10に青森県文化財指定を受け、地元教育委員会でも十三湖を禁猟区に設定するなど法律的な施策を講じた。その後、5年前から地元小中学校の生徒が立札等を立てて保護対策に万全を期している
岩手県陸前高田市役所	高田市小友町三日市浦沼はねぐらとして	12-25 2	12-28 4	3-5 3	1	統猟によつて負傷し死亡したものとの認める	広田湾の浦になっており、従来より渡来地とされていた。三日市浦は貝類が豊富で餌が十分にあり生息に適している。松原の古川沼は淡水で白鳥の生息に適していたが近年渡来なく指定解除、久しぶりの渡来	しません ●かつて渡来していた
岩手県下閉伊郡岩泉町役場	大字門、二升石	2-10 4		3-1 数羽	1	飛べなくなり、宮古市で加齢も死亡	岩泉町を東流して太平洋にそそぐ小本川に飛んできました	
宮城県桃生郡河北町役場	①町内新北上川(上流) ②針岡の富士沼	1-27 8	2-25 28	3-5 6	1	撃たれました	新北上川はながれゆるやか、兩岸は山岳で人家なし。冬期凍結せず。富士沼は山に囲まれた沼で人家から遠いところに舞い降りた	河北新報に掲載された
宮城県気仙沼市役所市長	陸上地区塩田跡	2月上旬 15-20羽		4月中旬 15羽	0		江戸時代につくられた塩田跡で、広さ4haの湖で水は汽水。海面に藻が繁茂している	動力線に1羽がぶられ負傷したのが回復して北帰した。宇茂呂新聞で注意が喚起された。立札で危害を加えぬよう注意。
宮城県本吉郡津山町役場町長	町内メ切沼 北上川・新北上川分岐点	1-30 16		3-27 6	1	①鉄砲による密猟	①メ切沼(全面積60町歩)羽沼地で近年国営により干拓されており、一部の湧水地帯に繁茂するセリ、タニシあり②分岐点で浅瀬があり岸辺に雑草この部分は結氷しない ②河北町飯野川の詰れとは異なるようだ	イヌワシクラブの会員が餌を与えたとところ着つてきて食した。残飯、茶袋、リンゴを好んだ。また白鳥保護のポスターを掲示した
宮城県松島町役場	①湾内磯崎港 ②手権湾	12-19 4 頃	1-14 39	3-30 5	2	ハンターに撃たれる	湾が深く、浅瀬でヨシが茂っているような箇所	しません
宮城県鳴子町役場	鳴子ダム	11-10 3 頃	2-1 13	4-1 13	0		鳴子ダム(多目的)人造湖でここを基地にして近辺の川等で遊んだ。	小中学校で危害を加えないように注意。新聞紙上に小秋して渡来を周知するとともに危害防除を掲載した ●本年初めて渡来した

秋田県大館市市役所農林課	主として米代川流域（大館市）	12-25 5~6	1-20 200 殆ど幼鳥	3-5 6	3 1羽衰弱死 2羽密猟	米代川流域の河原か付近の湿地	特別には保護しませんが、白鳥の密猟防止PRや河原に茶殻を撒布、あるいは糞魚所解放を行った。 ●例年1月ころ5羽くらい渡来する
秋田県島海村役場	上川内枯木溜池	11-26 3 (1回のみ)			0	標高250-300mの山野に点在するため池	
秋田県秋田市役所	田雄物川	1-20 40	2- 100	3-10 100	0	例年5-6羽渡来あり	
山形県吹浦市役所	月光川河口	1-23 1		1-27 飛び去る	0		
山形県東田川郡明日村役場	①荒沢ダム ②八知久和ダム ③大島川上流全域	①12-14 18 ②12-20 11		①2-20 0 ②渡去時期不明	0	例年12月10日ころ 10羽前後	しません
福島県相馬市市役所	相馬市松川浦及び磯辺山信田地内	12-末 53	2-20 55	3-15 22	0	この地区は不毛で、餌はシジミ小魚等も良くあり鴨が多く来る地区である。	市政日より(NHK-ローカル)により一般の保護協力を求めた。市内回覧板にて保護協力を求めた。狩猟クラブとも連絡を取り保護に努めた
福島県西白河郡矢吹町役場	大池・釜池	日時不詳 5-6羽				大池は四方を松林・畑で囲まれた3.5haの池。	戦前は大池に毎年渡来していたらしい。
茨城県行方郡麻生町役場	霞ヶ浦湖上	2-10 1			1 撃たれたらしい	撃たれぬあ個体を水戸に送ったが、手当てして餌を与えたが2-3日で死亡	
茨城県茨城町役場	石崎(潮沼)	2-15 4		2-19 4渡去	0		保護しません
茨城県神栖村役場	神の池及び常陸川の一部	1-20 2-3	2-20 43	3-5 3	0	村を大別すると鹿島灘に面した東北面は砂丘地であり、利根川、常陸川、浪逆浦に面した南西めんは水面(湿地)地帯である。	しません ●例年渡来する。羽数は5-8羽

新潟県北蒲原郡水原町役場	瓢湖	12-25 8頃	3-8 310頃	4-6 50	1	電線に触れて感電死(瓢湖上空)	添付の調査報告書を参照してください。	しました。添付の調査報告を参照ください。直県内各地で病気を保菌しましたが、内5羽が死亡(新大で解剖)、1羽は元気がなくなって北帰、3羽が残り、現在吉川宅で町がつくつた療養所で保護されている
新潟県阿津市高津高校佐藤春雄	佐渡加茂湖	1-24 1	2-26(2)	3-7 6	0	死亡している子供	果道近くの湖岸浅瀬で主としてアマモを漁っていた。大人しい白鳥であった。「野鳥32-1-2月号p54」佐渡加茂湖にオオハクチョウウゴ参照ください。	①猟友会に協力依頼②市の経済課に連絡。保護の標柱を加茂湖の周囲に立ててもらった③市教育委員会より各学校へ保護するように連絡④市当局で餌を撒いてもらう
新潟県西蒲原郡赤塚村役場	赤塚村佐鷺	12-20 5頃	2-1 250頃	3-10 10頃	1	病気が原因不明	天然の運根がいっぱいあります。佐鷺の面積約50町歩。	当地の狩猟組合、運転者協会と連絡し白鳥に不安を与えないようにしました。 ●例年渡来します。200羽くらい(年により多少違いがある)
石川県鳳至郡穴水町役場	立戸ヶ浜、字沖波	2月中旬 1		2月下旬 1	0		溜池 周囲4km 4km	していません
長野県諏訪市市役所	諏訪湖	2月はじめに5羽		3月末-4月上旬 3	1	いる	1羽保護、銃撃のため。現在大町市のハクチョウ類ぶついで農法で保護されている。	新聞社の協力を得て、保護について報道を行った
三重県志摩郡磯部町町役場	先崎字日出(まじ池)	2-15 12頃		3-15 12頃	0	死にません	荒地地でよしが繁茂しており魚が多くいる	掲示板、有線放送により保護高である旨を通知し保育に努めた。
島根県松江市市役所	宍道湖	12月末 16±	1月下旬 60±	3月上旬 6±	0	死にません	宍道湖は周囲48km、水深は全般に浅く平均1m程度。水藻の生育よし。	しません。但し、沿岸各地住民に湖面における狩猟の禁止等の徹底等を依頼し消極的ですが ●渡来地は例年定まっておりますが、松江市付近の湖上が多く、鴨とともにもに多い

島根県海士 郡海士村役 場文化観光 課長	諏訪湾	1-26 2	2-13 1	0		特別にはしていないが、小中 学校に荒らさぬように注意し た ●大正中期より昭和3年ころ まで、11-12月頃、5-7羽が諏 訪湾に渡来したことがある。
山口県萩市 市役所商工 観光課長	萩市阿武川河口 周辺	2-4 8	2-21 8	0	阿武川の河口から1km位の洲に4,5日いたが、それより さらに1km上流に定着した。	オオハクチョウを 保護しようと立札を立てた。 学校を通じていたつらしない 様子の呼び掛けた。近在の人が 野菜を細かく刻んだものを餌 として与えていた。 ●昭和15年ころ飛来したが鉄 砲を撃たれて飛び去った。

昭和34年～35年度白鳥渡来状況調査

4 市町村・研究家報告 <追記> 荒尾宛私信

市町村名	調査報告者	報告日時 表記番号	渡来地	報告内容																																
北海道 網走市	松井繁 (研究家)	1960/11/15	トーフツ湖	①11月15日現在数300羽 ②10月13日から14日に約20～30羽飛来。11月20日には約130羽でした。③慣れていません ④衰弱している個体はないようです。⑤当地の白鳥は主に網走市郊外のトーフツ湖に10月初旬～中旬に渡来して、11月下旬に姿を消す(凍結のため)。そして1月下旬に再渡来(潮切)する。潮切の翌日には風運湖が尾岱沼から飛来する。なお敦賀には何がいかか教えてください。というのは今年3月に急に寒くなり湖水が凍り死んだ白鳥が5～6おりましたので。																																
北海道 網走市	松井繁 (研究家)	1960/12/19	トーフツ湖	①35年11月30日約1,000羽渡来したそうです。これまでに段々集団が大きくなっていったようです。私は12月4日の双眼鏡で24羽が開水面にしているのを確認しました。その後寒気が懐いたので、おそろくないと思います。(トーフツ湖周辺の患者も少ないとのこと) ②なお、35年度は1月31日に3羽を確認し、2月5日に23羽を私が確認していますので、今年も大体同じと考えられます。																																
宮城県 松島町	竹谷彦藤 (研究家)	1960/12/3	松島湾	松島湾における大白鳥の渡来第1報 ①1960年11月10日 宮戸行き船上より松島沖を飛ぶ3羽を本人が確認。同日東名塩田跡東原湖に8時ころ8羽目撃。10時ころ飛び去ったのを船長から聞き取りした。②11月17日ころ東名と宮戸里浦中各で100羽位の大群で遊泳しているのを船長が目撃した。③11月21日に里浦入口に遊泳する5羽(幼鳥3)を陸上から私が目撃。以上昨年より1週間早く確認。																																
宮城県 松島町	竹谷彦藤 (研究家)	1961/1/26	松島湾	東北地方の1月中旬んおける極悪環境、去る中旬の気温低下により食餌の陸上採取は困難になったらしく不凍湖や海岸に棲みついたようです。当地松島湾東名浦に1月17日は8羽(幼5)、21日は13羽(幼5)となり今後増加の様相。(昨年度は40羽)昨年密漁の行われた手檣浦には20日に成鳥3羽飛来。線路内の湖に2羽入っています。昨年は線路外浦でしたが密漁による移動と考えられます。																																
茨城県 鹿島郡 神栖村 役場		1961/1/4	神の池	白鳥渡来報告 標記に関して 1961年1月4日 初認2羽にて毎日遊泳しています。																																
新潟県 北蒲原 郡水原 町	吉川彦男 (研究家)	1961/2/6	瓢湖	1月15日以降の渡来状況をお知らせします。なお県内の福島湖と白鳥の出入りがあります。瓢湖と福島湖を又にかける白鳥もいます。 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>1.15</td> <td>1.16</td> <td>1.18</td> <td>1.21</td> <td>1.24</td> <td>1.29</td> <td>1.30</td> </tr> <tr> <td>成鳥</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>31</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼鳥</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>9</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>18</td> <td>33</td> <td>56</td> <td>15</td> <td>48</td> </tr> </table>		1.15	1.16	1.18	1.21	1.24	1.29	1.30	成鳥	6	10	9	31				幼鳥	4	2	9	2				合計	10	12	18	33	56	15	48
	1.15	1.16	1.18	1.21	1.24	1.29	1.30																													
成鳥	6	10	9	31																																
幼鳥	4	2	9	2																																
合計	10	12	18	33	56	15	48																													
香川県 庁林務 課		1961/2/11	香南町小田池	前略、本県にも数年前から1,2羽は程度はきたことがありますが、本県香川県香南町小田池に1月中旬以降26羽渡来。このようなことは本県としても初めてのことであり、ご参考までにお知らせいたします。目下池も小さいので給餌をしております。																																

北海道 野付郡 別海村	1961/2/28	別海村	村内白鳥調査において二期待に添えたことを喜んでおります。今後とも保護に関しましていろいろご指導をくださいますようお願い申し上げます。 直雄先日尾岱沼より6km山寄りのところで最近死体が1羽拾われました。
北海道 野付郡 別海村 野付小 学校	1961/3/18	尾岱沼	(野付沼の白鳥の状況)最近の暖気で野付沼の水は瀬別河口まで氷が融き、約1万羽の白鳥が国道近い河口に集まっており、十数年來の寒さのために沖合を漂っていた群れが生気を失ったように見受けられるこの頃です。最近当地方に白鳥公園、保護状況が活発に名新聞等に報道されておりますのでスクラップを起こらせていただきます。
宮城県 迫町役 場経済 課	1961/3/28	伊豆沼・長沼	(白鳥渡来状況全国調査に35-36年度分として報告あり) ①渡来した ②町内伊豆沼及び長沼 ③初認1961年2月15日ころ38羽 最多日:2月28日60羽 減少:3月20日ころ25羽。④渡来地の状況:伊豆沼・長沼には水深3m程度。多くの淡水魚が生息している。⑤死亡なし ⑥特別に保護はしない ⑦例年渡来しているかしている
宮城県	1961/4/8	全域	本年度の白鳥渡来は下記の通りです。 ①玉造郡鳴子町荒雄湖 1月 5~6羽 ②栗原郡伊豆沼 1月18日12羽 3月5~6日 100羽位(輸送のものが集結したと思う) ③桃生郡河北町新北上川 1960年12月23日~1961年1月21日 -8羽 ④松島町松島灣 1961年1~2月 12~13羽 ⑤登米郡長沼 1961年4月4日 6羽 ⑥栗原郡吉柳町迫 1961年3月2日~8羽 ⑦本吉郡津川町弁天橋 1961年1月15日 3羽(幼1) ⑧気仙沼市隣上一塩田 1960年12月下旬 - 3羽(1羽死亡) ⑨桃生郡成瀬町成瀬河口 1961年1羽死亡 ⑩桃生郡河北町富士沼 1961年1月上旬~3月6日 -52羽 上記のとおりですが、本年は昨年渡来した地区のほとんどが禁猟区に指定されたので発砲・追害の被害は全くありません。なお昨年より渡来数はかなり少なかったようです。しかし一昨年前以前よりは多いので、海灣渡来したものは海灣類を、河川に渡来したものは淡水魚類を食餌としています。
北海道	1961/4/10	ウトナイ湖	1961年4月5日荒尾氏来訪後の状況をお知らせします。1961年4月7日午前6時、白鳥30数羽、雁鴨は数百羽は見られた。正午すぎ一層鳴き声が激しくなり午後には雁鴨白鳥カモはそのままだまは5羽のみで正午頃飛び去った模様。8、9日は雁鴨は変わらず白鳥は湖心に4~8羽のみ
山形県	1961/4/10	最上川河口中 洲ほか	白鳥渡来状況をお知らせします。県内に渡来するのは内陸湖沼及び最上川及び支流に単独あるいは4-5羽で渡来します。最も多く集まるのは酒田市最上川河口の中州であります。 ①1959-1960年度の渡来は、最上川河口中洲に1月下旬ころ30羽渡来し、3月中旬まで逗留した。 ②1960-1961年度も34羽と6羽の合計40羽の白鳥が最上川河口に1月28日に渡来し、3月中旬に渡去した。この間吹雪あるいは水害が相次いだときは内陸の湖沼や最上川及び支流に逗留する。本県に渡来する白鳥はおよそ若狭小湊に集まる途中に滞留するがものごとく新潟県瓢箪湖から飛来するものではないかと思われれます。なお酒田市に渡来する白鳥は毎年増えている様です。(一都路)
福島県 相馬市 役所商 工水産 課長	1961/6/6	松川浦	松川浦本年の渡来について 1961年1月10日 15羽 1月22日さらに22羽、東海林が調査に行った1961年2月2日には、15羽の群れと13羽の2つの群れに 1961年2月3日には35羽が観察された。3月15日ころ渡去した。

昭和34年～35年度白鳥渡来状況調査

5 新聞情報(1959年-60年度) 昭和34年10月1日から昭和35年3月15日まで

都道府県	新聞社名	掲載日時	渡来地名・見出しほか	要約
北海道	北海道新聞社	1959/12/15	風運湖の白鳥	“ざつと2万羽”風運湖の白鳥は専門家の調査が行われていないので正確な数は分らないが、一つの集団を千羽と見積もると少なくとも20,000羽はいると言われる。秋の寒風は観光客の誘致、保護対策、学術的立場より重要なれど増減もわからないのが現状であるという。また例年何羽死んでいる。今年も銃猟と思われるもの(2)、自然死(1)が発見されており、永田洋平氏も銃撃がないとは言えないという。
北海道	北海道新聞社	1959/12/24	“風運湖”凍る	19日の寒さで凍りはじめ23日までに湖面の70%、おおよそ1万羽。いまだ凍らない古潭、鑪吉側に移動。完全に凍ると移動をする。
北海道	北海道新聞社	1960/2/2	衰弱発見は届け出を	支所より要請あり
北海道	北海道新聞社	1960/2/2	帯広市内内の河原に落鳥	2月1日帯広市内札内川の河原に5羽の雛の群れが落ちる。丹頂鶴自然公園に送り保護する。十勝愛鳥協会の話しては毎年11月～3月頃に遠部川、取別川にやってくるが数は少なく珍しいとのこと
北海道	北海タイムス	1960/2/2	白鳥の厚岸湖	白鳥の一大楽園、根室風運湖が水に閉ざされ、4000羽に及ぶ
北海道	北海道新聞社	1960/2/8	余市町に	余市町茂入海岸に1羽、2-7羽早朝渡来する。成鳥、付近医白鳥の渡来初めて
北海道	北海道新聞社	1960/2/11	静内町に2度目	静内町築港付近で衰弱、2月9日
北海道	北海道新聞社	1960/2/12	“白鳥”道林務部より	道林務部調査では昨年12月下旬より、体が衰弱して自由に飛ぶことができないまま保護された白鳥は全道で15羽。このうち鉄移管後に死亡が11羽5日現在5羽、この15羽の内成鳥は3羽。12羽は幼鳥である。青森県小港でも、今年も今年も白鳥の死に方は異常であると見ている。渡来する白鳥は年々増えているが、鶴野今年も日本海側沿岸まで含む道内各地に、しかも2ヶ月ほど早く渡来するという風倒な傾向を見せているという。道林務部では原因を次のように見ている。毎年シベリアから一番早く渡ってくる根室の風運湖が例年より早く12月中旬に湖面の95%が凍結。一方道南方面では暖冬降雪であつたために白鳥はこれまでとは異なり風運湖から分散して南におたる傾向が出ている。ところが新しい飛来地は環境に不慣れたため十分に餌をとることが出来ず、特に幼鳥は順応性が低いために衰弱したのではないかと、さらに保護された15羽の内3羽は銃撃を受けた傷があるが、これも新しい飛来地で白鳥を見慣れない猟人が不意にも撃ってしまったのではないかと。この白鳥異変は瀬棚、内浦湾沿岸にも出ている。道林務課は関係支所に対して「保護白鳥は薄層の静かな部屋におき、数羽人以外は部屋に近づかない、餌は朝に1日1回バケツの中の水に青菜か青草を浮かしたのと、擦りつぶした穀類を水で溶いたものを与え、魚は与えないように」と指示している。
北海道	北海道新聞社	1960/2/18	木古内町に衰弱1、奥尻市街に1幼鳥	2月10日、町上中野部落で成鳥1、2月15日まで保護したが死亡。木古内第一中学校に刺製として保存。2月5日市街南側付近で発見。2月6日死亡。奥山淳尻中学校に刺製として保存。
北海道	北海道新聞社	1960/2/15	春の散歩	網走港外ユウフツ湖、2月14日現在100羽ほど。10月中旬に渡来。結氷期でさらに南下。網走市南五西四 医師松井繁氏撮影の写真を北大船艇教授に送付したものの
北海道	北海道新聞社	1960/2/24	今年には床丹河口に	白鳥米のない部分に集まる。例年1月～2月には野付湾尾岱沼の野付中学校前から、春別川河口沖合い一面に見られる1万羽以上の白鳥。床丹河口の米のない箇所が集まる。前例がない。

北海道	北海道新聞社	1960/3/6	救われた白鳥の子	三石町美和野部落に降りる。町立東中学校で保護し札幌の円山動物園に送った
北海道	北海道新聞社	1960/3/9	トーフツ湖の白鳥	9羽すでに倒れる。今年になって道内で白鳥の衰弱死が目立つ中で、トーフツ湖は今までに見られない程の大群が渡来し、その数は200羽といわれ、現在1羽死亡。衰弱の酷いもの8羽、いずれも保護後6羽死亡、2羽のみ生きている状況。(オホーツク水族館など)原因は不明で道林務課で原因調査をすることになっている
北海道	北海道新聞社	1960/2/26	苫小牧付近	白鳥も帰り支度に、餌を漁る200羽ほどの白鳥
北海道	北海道新聞社	1960/3/11	湖面を閉ざす水	急激な寒波のため、根室風蓮湖、尾岱沼が主渡来地。冬の初め比較的暖かかったが、1月中旬から下旬にかけて太田動吹雪やシシケに見舞われ、一夜のうちに湖沼の水面が凍ってしまった。羽が凍りつく(厚岸)、あわてて移動したものの十分餌が取れず気候に順応できなくなったなどで衰弱し現在までに確認された白鳥の死は約30羽(道林務課調べ)、網走のトーフツ湖で保護された網走水族館で暖かい部屋に入れたところほうれん草を一度に一束も食べると腹をすかした。また死亡した白鳥の胃を調べた処、藻や草のひびとかけらもない状況であった。また渡来数が非常に増えたこともエサ不足に拍車をかけた。風蓮湖・尾岱沼を合わせて1万1千羽くらいだったが、今年は2万羽近くもおお、別海村の野付湾や厚岸湖、トーフツ湖など道内の湖沼地帯だけでなく青森県小湊などでも驚くほど多数の白鳥が姿を見せている。衰弱は死亡した白鳥の8割は幼鳥で衰弱しきつた白鳥は手当てをしても回復せず死んでしまうケースが多い。トーフツ湖で弱っていた13羽の内7羽は2、3日で死亡。その他、生け捕られたり撃ち殺されたものうわさが頻々である。(厚岸・野付)
北海道	朝日新聞	1960/4/5	厚岸湖	2月には1500、4月に入り5~600羽
北海道	北海道新聞社	1960/5/15	トーフツ湖の白鳥	死亡は10数羽といわれる。いずれも網走支所林務課に持ち込まれ、第一中の大西重利氏により剥製とされた
北海道	北海道新聞社	1960/7/4	風蓮湖	4羽の白鳥が暴みつく。カイカラコタンの入り口。5月10日に飛び立った最後の集団より残ったもの。数年前には6月上旬に残った白鳥を撃ったものもある
青森県	東奥日報	1959/11/28	第一陣200羽	大湊200羽。今年の白鳥は物おじせず。十三湖70±、小湊140。大湊では11月23日に6羽(幼4)例年より1ヶ月前
青森県	東奥日報	1959/12/20	役人が白鳥荒らし	く、またひどく慣れるので驚いている。コクガンも11月初旬に7~8羽。11月27日現在52羽~いずれも三上氏の話し12月13日頃、十三湖で動力船で撃ちまくる。北郡市浦町役場係長野村武利(狩猟監視員)の話し、12月13日ころ1000羽位いいが、発砲され現在は400羽
青森県	東奥日報	1960/1/15	県議会「白鳥の完全保護を図る」	十三湖緑漁区に、①本種を特別天然記念物にし、兼島のウミネコと同扱とする。②さらに十三湖周辺を禁猟区として小湊と同格にする。③渡来期間に限り禁漁区とするなどの意見あり
青森県	東奥日報	1960/1/22	十三湖	完全保護としたいが、費用で地元足跡のみ。市浦町展望台や監視元常駐地元負担に問題あり 市浦市営林署事業課 鳴滝行雄
青森県	河北新聞	1960/1/26	小湊の白鳥	10月8日初認8羽。1月25日700±(浅所小、小湊小調査)、1月10日2羽、20日に2羽、湾内で保護。22日に1羽死亡。この内1羽はのり網に足を突っ込んで死んでしまったと思われたが解剖の結果餓死とわかる。地元漁協は餌を漁りやすくするためにのり網を100mも沖に移動。22日に町の主催で慰霊祭を行った。
青森県	東奥日報	1960/1/28	大湊	三上氏…白鳥28羽、コクガン150、十三湖1~15~16日に密漁が3件あり、2羽死体発見、4~5羽羽のハンターが持ち帰った。市浦村役場では被害の資料作成する
青森県	産経新聞版	1960/1/28	小湊	1~10~28日の間に7羽(すべて幼鳥)死亡、和田千蔵氏解剖ではすべて餓死。このほか蟹田町1(病気)、中郡岩木村1(保護)、下北郡川内町1(電線)などが報告された。
青森県	東奥日報	1960/2/1	小川原湖沼	1月31日 3人の米兵によって10数羽の群れが発砲され1死1傷害の報告あり。奥寺信男氏

青森県	東奥日報	1960/2/1	皆で餌をやろう	栄養失調、小湊で倒れた3羽の胃袋には何も残っておらず、肉ずきも悪い。餌の対策が必要である。
青森県	東奥日報	1960/2/7	渡来	上北郡野辺地野辺地川口に渡来あり。最多20羽くらい。このうち1羽が傷病で保護した。
青森県	河北新聞	1960/2/8	少ない白鳥の餌代	小湊、保護に国の援助が欲しい。同町教育委員会が県林務課員に要請。試験的に餌まきをしたところ白鳥が食べるのが判明したが今度は購入費が問題化。高山正光監視員（県林務課嘱託）によると、1月10日から2月5日までに15羽が死にじし（一昨年5羽）現在病鳥が9羽いる。1月末より引籠時に回遊の3ヶ所にトウモロコシを1回2kg、この10日ばかり撒いているが1日50kg羽必要と思う。しかし、町の保護費は2万円しかない。
青森県	産経新聞	1960/2/10	小湊極端な餌不足	1月10日～月末までに、8羽死亡。白鳥塚に葬った。現在1200羽くらいいる。県境域委員会では危害を加えず、適切に保護するように各市町村教委に通達した。餌の供給に皆様方の協力を。
青森県	東奥日報	1960/2/19	大湊海岸	海岸沿いに753羽、田名部川河口、戸崎両地区に7羽、昨年より400羽も多い。保護運動が盛んである
青森県	リ－東北	1960/2/29	十和田湖	例年数羽なり、中山半島付近に20数羽
青森県	東奥日報	1960/3/11	浅所海岸	千数百羽。35倒死。このほかあまり飛べない40羽あり、平内町教委中心に地域漁民がリンゴやジャガイモの餌を与えると種の下に寄ってくるほど、また海岸で餌を待っている様で新名所である
青森県	東奥日報	1960/3/29	十三湖の白鳥	県の天然記念物に。文化財保護委員（和田干蔵議長）は、県教委に答申を決定す。文部省は「各種文化財を保護する段階」で難色を示し、県条例により天然記念物指定す
岩手県	岩手日報	1960/2/2	久慈市玉の鰻港	1月25日ころ1羽衰弱死、付近にいた数羽から脱落。栄養失調が原因。同市長内中学校阿部菜教諭解剖
岩手県	岩手日報	1960/2/16	宮古市に	市内閉伊川及び「津軽石川に渡来。閉伊川はハクチョウ成鳥1羽、津軽石川はオオハクチョウ幼鳥7
岩手県	河北新報	1960/2/21	岩泉町	2月12日に2羽渡来。1羽は同町小川部落で凍死。1羽は16日衰弱したところで宮古に送られ死亡、衰弱死
岩手県	リ－東北	1960/2/21		北久慈市に6羽飛来。10数年ぶりとのこと
岩手県	岩手日報	1960/3/13	花巻にも白鳥	3月11日同市宮野目、西宮野目地区三助堤に成鳥3羽が渡来。花巻猟友会佐藤隆房氏も初めて見て由
岩手県	岩手日報	1960/4/23	九戸郡野田村	3月2日村内の海岸で1羽のオオハクチョウが発見保護され久慈高校野田分校の斎藤敬吉氏が1ヶ月手当てし上野動物園に送られた。
宮城県	石巻新聞	1960/2/2	白鳥渡来	桃生郡河北町飯野川合戦谷の新北上川で1週間くらい前から19（内13幼鳥）渡来し、岸の浅瀬で餌を漁っている。来訪は2-3年前に2-3羽あったのみ。河北町大川地区富士沼にも2-3羽みられる由
宮城県	河北新報	1960/2/3	白鳥渡来	1月25日、河北町付近北上川に成鳥6幼鳥13羽、合計19羽が渡来した。22年ころまでは同市に毎年7-12羽、27年には9羽渡来したことがある。なお立花夜信氏と沢谷武雄（飯野川高）の2人で観察中に対岸から発砲され幼鳥1羽倒れた。
宮城県	石巻新聞	1960/2/4	午後	1月31日午後、ハンターにより1羽射殺されたことが分った
宮城県		1960/2/12	成瀬川に白鳥	2月10日より、20羽くらいが、成瀬町成瀬川上流仙石線成瀬鉄橋付近に渡来している。岸の浅瀬で採餌をしている
秋田県	秋田魁新報	1960/1/21	リストのみ	白鳥渡来、例年より多い秋田港に遊ぶ白鳥
秋田県	秋田魁新報	1960/2/7		明和村で猟師が射殺して食らう

秋田県	秋田魁新報	1960/2/7	病める白鳥いたわる	
秋田県	秋田魁新報	1960/2/9	猟友会副会長親子で射殺	
秋田県	秋田魁新報	1960/2/14	合川町でも猟友会員2人が	
秋田県	秋田魁新報	1960/2/16	雄和町でも猟師が、白鳥の射殺すでに6羽も	
秋田県	秋田魁新報	1960/2/18	鷹栖町で家畜商が射殺 白鳥1羽	
秋田県	秋田魁新報	1960/2/20	白鳥の死	
秋田県	秋田魁新報	1960/2/24	学校へ寄付の目的で射殺	
秋田県	秋田魁新報	1960/2/27	病気の白鳥保護	
秋田県	秋田魁新報	1960/3/2	白鳥3羽、仙石でも射殺 協力者：岩澤米太 大館市新町	
秋田県	秋田魁新報	1960/3/3	鳥海村で白鳥射殺し食う	
秋田県	秋田魁新報	1960/1/11	12月11日ころ渡来、1月11日現在在任している。古老に話で歳52年度振り	
福島県	福島民報	1960/1/1	12月初めころにシベリアから渡ってくる。30-40羽。湖畔長瀬川河口から志田浜にかけて見られる	
福島県	福島民報	1960/1/17	本格的な保護策へ、県野鳥の会	
福島県	福島民報	1960/1/24	湯沢太郎氏 ①県内では松川浦、牡丹池、矢吹大池、町池、郡山市郊外蓋瀬などに数羽ずつ飛来したことがある。②郡山市楠小学校の刺殺は同市東部の阿武隈川で捕獲。③小生所産品オオハクチョウ幼鳥は熱海町郊外で2-3年前に射殺されたもの。④数年前郡山市五十鈴湖に1羽飛来したことがある。⑤猪苗代湖では当方の調査で、20数年前から10羽単位で渡来している。密漁がたまにあるらしい。猪苗代湖の電気屋に刺殺が断られている。⑥猪苗代湖の養魚区化を提案している。	
福島県	福島民報	1960/1/26	最高44羽(2幼鳥)が志田浜沿いの中州にみられた。金曲部落猟師横山さん23日は18羽。志田浜の浅瀬で餌を漁り、小平潟天神から扇島あたりを日に2-3回往復している。田村屋主人大山一郎氏は戦前も少数来ていたが、米兵の銃弾によって7-8年見られず。昭和28年初めて数羽飛来した。昨年10月10日ころ3羽。1はつには最大44羽を確認した	
福島県	福島民報	1960/1/29	外阿武隈川に1月28日に3羽渡来した	
福島県	福島民報	1960/2/13	2月12日、郡山市山上水池に3羽渡来した	
福島県	福島民報	1960/3/4	3月初め南町湯川温泉付近 早朝に見られた。会津若松市南町 佐藤氏撮影	
福島県	福島民報	1960/3/9	6羽密猟された 大人しい白鳥であった。「野鳥32-1-2月号p54」佐渡加茂湖にオオハクチョウご参照ください	
福島県	福島民報	1960/4/5	天然記念物指定申請へ	
茨城県	東京新聞	1960/2/9	水戸仙波公園 1羽、数日前に渡来	

茨城県	朝日新聞	1960/2/17	霞ヶ浦北浦	2月16日 1羽 (幼鳥) 水産事務所の巡視船が見つける。散弾による銃創で、1羽死亡。
新潟県	新潟日報	1969/12/29	瓢湖	吉川老死亡、重男氏跡を継ぐ
新潟県	サンワ新聞	1959/12/29	吉川方に2羽の傷病	①11月中旬、山形県荒川ダム付近 ②11月下旬新潟市井輪新藤付近で保護された、いずれも幼鳥
新潟県	新潟日報	1960/1/1	瓢湖渡来	31日午後8時30分、6(幼4)。正月前ははじめて、30日に12羽上空通過
新潟県	新潟日報	1960/1/9	三条市	須戸地区の田んぼに、4-5日前から、22(最多)、12-3羽朝どこからか飛んできて、昼ごろ戻る。
新潟県	新潟新聞	1960/1/29	佐渡沢和田町	八幡堤に1月26日5羽、1月27渡去する。地元教育委員会から親友会へ保護要請。過去も1958年3羽渡来して2回目
新潟県	読売新聞	1960/1/31	瓢湖	68羽、お客10,000人を超す。堤に上って遊ぶ白鳥あり
新潟県	東京タイムス	1960/1/31	瓢湖	1月29日、9回にわたり81羽渡来す。内1羽高圧線に触れて死亡する。
新潟県	新潟日報	1960/2/4	白鳥の新潟県内渡来状況	①西蒲原郡佐潟、180羽が2月1-2日に舞い降りた。同村公民館の話では1956年にも150羽みられた由 ②中魚川西町赤天池1羽が午前中に飛来午後飛び去る。 ③佐渡両津市加茂湖、1月下旬以降5羽が居つく。
新潟県	新潟日報	1960/2/7	福島潟	2月6日現在100羽、毎冬10羽位い渡来あり
新潟県	新潟日報	1960/2/8	村上市三面川	①三面川8羽、 ②小千谷市岩沢、傷病白鳥1羽あり。 千波普示氏(長岡市立科学博物館鳥獣研究室)
新潟県	毎日新聞	1960/2/9	瓢湖に大群	2月8日午後4時-4時30分の間に152羽が飛来着水。これにより現在270羽
新潟県	新潟日報	1960/2/13	県林務課、教育庁	県庁に保護PR。①新潟市内野地区に1月20日頭部に銃弾のある1羽。 ②瓢湖 1月25日1羽高圧電線に接触死 ③十日町岩沢地内信濃川、2月上旬復配せる1死体。死因不明 ④中蒲原郡小須戸町ない信濃川廣敷1体 ⑤村上市羽下ヶ淵、無職小池兼松2月初め三而川で8羽発見養鳥、1羽は飛べなくなると保護。⑥同蒲川村傷病1羽保護。同内野地区傷病1保護。餌代補助金実現済い。江村重雄新大理学部教授「白鳥の餌ひと握り運動」椿原造林保護課長。
新潟県	毎日新聞	1960/2/14	瓢湖	現在271羽、シイナ、乾燥茶殻を湖畔に花5-60cm×長さ5mほどを板で囲って餌場から与える。町役場統計課村上孟 公民館長家田三郎 年間予算20万円
新潟県	サンワ新聞	1960/2/20	瓢湖	現在、270羽以上。3,000羽以上の鴨と越冬中。8時、12時、3時に餌を与えている
新潟県	朝日新聞	1960/2/8	瓢湖	病気に倒れる白鳥に町で白鳥小屋、現在5羽。
石川県	北国新聞	1960/2/6	県下渡来状況	①志雄町柳瀬海岸、2月6日銃弾で1羽死亡 ②珠洲市折戸町川浦海岸、2月5日3が渡来し1羽落鳥、保護後死亡 ③内浦湾小木九十九湾、2月初旬より10羽程度飛来したが、湾内で1羽、同町立塾で1羽射殺され飛び去った
石川県	北国新聞	1960/2/7	鹿野金沢大学教員	県警に要請、教員内に内浦町、志雄町で3羽射殺の事実。オオハクチョウは例年少なくとも邑高知、河北潟に数話渡来している。(石川県野鳥の会会長)
石川県	北国新聞	1960/2/8	輪島市	2月7日、輪島第3防波堤、保護せしめ輪島中学校で治療せしも死亡 ②珠洲市蛸島町、蛸島小学校に剥製保存す。海編にある大池には5-6羽。
石川県	北国新聞	1960/2/8	石川県内では6羽 (内2羽衰弱) 県敬防犯課調査中	石川県内では6羽 (内2羽衰弱) 県敬防犯課調査中

石川県	北国新聞	1960/2/9	内浦町小木	内浦町九十九湾には10枚羽。1羽続飛で死亡
石川県	北国新聞	1960/2/10	内浦町九十九湾	①12(幼5)干拓地は11haの水田に。周囲1.5km、水深1mシジミ多し。午前6時30分ころ採餌地の中央部の浅瀬に移動。来年は水田になる箇所。 ②穴水町沖浪立戸浜、2月5-6日に2羽飛来
石川県	北国新聞	1960/2/15	内浦町干拓地	九里川尻干拓地には8羽、内1羽保護、2月9日幼鳥15日死亡。2月に2幼雛銃撃で死亡、3羽となる。熊谷教授現地調査。
石川県	北国新聞	1960/4/5	内浦町九十九湾	九里川尻干拓地には9羽残存。大麦の新芽を食い荒らすので問題化。
福井県	福井新聞	1960/2/10	足羽郡に白鳥	2月9日、足羽郡水田に7羽のオオハクチョウ渡来 (県警本部鑑識課 林武雄氏)
長野県	南信日々	1960/2/12	諏訪湖に白鳥	2月7日ころ4羽渡来。1羽は初島付近で落鳥保護された。早急に放つ予定
長野県	南信日々	1960/2/18	諏訪湖に白鳥	2月10日諏訪探鳥会会長小平万栄確認
滋賀県	読売(大阪)	1960/2/14	琵琶湖に白鳥	①2月10日、蒲生郡竜王町山の上竜王小学校前の新池(5ha)に4羽渡来。内1羽射殺さる。 ②2月11日甲賀郡甲賀町竜法師百ヶ池宝飯に、11羽渡来し、2月3日1羽射殺される。3羽残った。小学校に寄付するつもりは
島根県	島根新聞	1960/3/7	宍道湖に白鳥	3月6日現在、61羽。八東郡秋鹿庄前より秋鹿駅の間、松江野鳥の会(木幡吹白会長)
宮崎県	日向日々	1959/12/5	巨田池に白鳥	11月25日ころ、同池南側機器場TVや支所林務課長他の浅瀬にオオハクチョウ6羽。宮崎大学応用昆虫学研究室 中島義人
宮崎県	日向日々	1960/4/4	巨田池に白鳥	オオハクチョウ5羽、1羽イタナワナナで左足けが。町教委を経て、「子どもの国」にて引き取られた
富山県	北日本新聞社 調査部			富山県市で渡来の話は聞いておりません。直植木忠夫氏(富山大学文理学部生物研究室)が何か承知かもしれません
鳥取県	日本海新聞社 調査部			白鳥の件、鳥取県には渡来の記録がありません。(鳥取県立科学博物館学芸員森田政雄氏の調査による)
広島県	中国新聞社 調査部			調査した結果、広島県下には白鳥が渡来した様子はなく、従って新聞にも掲載がなく。念のため広島大学にも照会しました。処、研究機関がなく判明しないという事でした。なを今後渡来しましたら連絡をいたします。
愛媛県	愛媛新聞社 調査部			白鳥に関してはここ数年の記録は皆無です。ご期待に添えない様で残念ですが愛媛県に關しては渡来してはいない断言できるのではないかと思います。友人の県庁警備員や親友会員にも以前から気をつけてもらうように頼んでおります。万一今後渡来しましたら、早急に新聞ラジオを介して保護を呼びかけ、貴見にご連絡をいたします。
長崎県	長崎新聞社 編集部			早速本誌はじめ各方面に問い合わせ調べて調べましたが、34年、35年度と本県に渡来した形跡は全くないようです。
福岡県	西日本新聞社 文化部			新聞切抜き送付は出来かねます
鹿児島県	南日本新聞社 資料部			鹿児島県に關しては渡来に關してはつきりとした記録は無いようです。

2回目のハクチョウ類(コハクチョウ)による大規模移動について

2回目のハクチョウ類大移動は7年前「2005-2006年北陸大豪雪」と記録された大寒波襲来によって生じています。

■*7 気象庁は暖冬と予想していたが12月中旬頃から北極振動により日本付近に寒気が流れ込みやすくなった。12月の月平均気温が戦後最低になった地点が続出し、低温傾向は1月上旬まで続いた。著しい低温となった北陸地方では12・2月の平均気温が平年を1.4℃(当時の平年値では1.2℃)下回り、最も寒かった12月は平年を3.2℃(同3.1℃)下回る記録的な低温となった。20年ぶりの全国的な寒冬となった。この冬は2005年秋にラニーニャ現象が発生し、それまでの顕著な暖秋傾向から一転して冬は極度の低温となった。

新潟県阿賀野川流(瓢湖や福島潟など)の平野部から、主にコハクチョウが大規模でパニック的な移動を開始した。

2005年12月初めに大寒波が襲来し、生息域での凍結と新潟では長時間の豪雪と重なって餌場とねぐらが奪われ、また夜間に野生鳥獣等に襲われるなど、いずれも凍結等によって、コハクチョウ群は、生存するための危機に直面したと考える。

12月20日頃から、複数のルートで日本海側から太平洋側へ、そして関東から関西までの太平洋側の各主要河川においてコハクチョウの越冬地形成がなされ、現在にまで新たな越冬箇所での個体数は確実に拡大してきている。

この時には、明らかな傾向として幼鳥を抱えた家族群単位での移動という観点に注目している。

これは1959-60年度のコハクチョウ類(今回はコハクチョウ)の約45年振りの大移動だと考えている。餌付け打ち切りで、安心・安全・餌資源確保という餌付け箇所での安定基盤を失って新潟県の阿賀野川周辺に集中化が進み、その増加分が不安に駆られたのかもしれないと考えている。

全国的に鳥インフル等の感染リスクに鑑みて、ハクチョウ類への餌付けを排除して、逆にハクチョウ類にも野生化を促して自立させる方向が強まっていたことがあると思う。結果としてハクチョウ類は餌付けと同時に、安心・安全網をも喪失してしまって、餌付け離れによる生息環境の不安定化が考えられる。

たまたま2005年12月早い時期から延々と続いた、北陸全域に及ぶ豪雪と寒波による生息地の凍結で、一気に田んぼでの餌の確保とねぐらの安全を失い、結果としてパニックに襲われたと考えられます。

2回目のハクチョウ類大移動の状況

2回目は、12月上旬に生じたコハクチョウで、「2005-2006年北陸大豪雪」による大寒波襲来によって大寒波の影響で、いずれも滅多には生じないが、パニック的な移動を引き起こしたときは要注意と考える。

2004-2015 年の期間中にどのような動向でほぼ 10 年が経過して、その定着化に関して、各方面からの情報収集をすすめております。

戦後に2回生じていると報告できるハクチョウ類の大規模移動。

それを機会として、結果としてコハクチョウは、特に太平洋側の各河川沿いに、生息圏を一気に拡大することになった。長野県、千葉県、岐阜県、神奈川県、愛知県、静岡県
の太平洋側に新たな越冬地形成が生じ、その後それらの越冬地は特に長野県の千曲川
流域、木曾川などを中心に、継続的な渡来と個体数増加が進んでいる。

2回目のハクチョウ類移動に関する報告は発生から10年を経過する次年度会報で報告
をします。なお、発生時の初期的な対応などの情報として

■*6) 千葉県下での2005-2006年ハクチョウ群の観察記録をご覧いただきたい。

引用文献

- 阿部学. 1968. ハクチョウ類に関する知見並びに実情と対策. 鳥 18(85):379-39.
 荒尾稔. 1961. 福島県下に於けるハクチョウ類の渡来. 鳥獣集報 18(1):149-155.
 荒尾稔. 1961. 根室地方におけるハクチョウ類の渡来. 日本野鳥の会会報 26(2):1
 - 2, 50 - 54.
 荒尾稔. 2006. 千葉県下での 2005 - 2006 年ハクチョウ群の観察記録. 日本白鳥の会
 会報 (30): 6-18.
 荒尾稔. 2012 餌付け離れのハクチョウ類のこれからを検証する. 日本白鳥の会会報
 (36): 8- 40.
 荒尾稔. 2012. 冬期湛水(ふゆみずたんぼ)による人と水鳥どの共生「蕪栗沼の奇
 跡」. 印旛沼流域水循環健全化調査研究報告 1: 112-119.
 荒尾稔・中村俊彦. 2012. 利根川下流・印旛沼流域における水鳥の越冬地復活. 調
 査研究報告 1: 120-130.
 布留川毅. 2012. いすみ市のコハクチョウ渡来状況・激変している白鳥の越冬分布.
 千葉生物誌 62(1): 1-4.
 中西悟堂. 1960. 本冬白鳥白書. 野鳥 202: 45 - 61.
 中西悟堂. 1961. 本冬のハクチョウ類白書. 日本野鳥の会会誌 25(6): 383 - 399.
 野付中学校瑞木博. 1967. 野付湾における白鳥群の動勢. 野付中学校発行プリント.
 瑞木博. 1974. 野付湾における白鳥保護活動に就いて. 日本白鳥の会会誌 20:80-87.

Web からの検索・引用

八郎潟干拓工事 大潟村百科事典 www.ogata.or.jp/encyclopedia/history/2-2.html
 2005-2006 北陸豪雪 Weblio <http://www.weblio.jp/wkpja/>